Page. 02

図書館の利用方法・司書の仕事

教えて、司書さん 図書館の魅力

小さいころに読んでもらった絵本や物語。子どもに読んであげたいけれど、書店に置いていない―。書店では雑誌に限らず、本も新しいものに入れ替わります。図書館には、雑誌も本も、最新のものだけでなく、バックナンバーもそろっています。こんなことが知りたい、こんな内容の小説を読みたい。そういったときにも図書館が役立ちます。

Par.01 目指せ、検索マスター

図書館の本の並び方を分かりやすく漫画で説明。図書館に設置してあり、ホームページからもダウンロードできます。裏面は日本十進分類法キャラクター紹介となっていて、各キャラクターがそれぞれの分類の特徴を若い世代にも分かりやすいよう解説しています。

写真上・本の題名と著者、感想などや、読みたい本を記してお ける「100冊読書手帳」と100冊達成したときにプレゼントしているしおり。写真下・分類擬人化キャラクターは、図書館の書架にも掲示しています。

図書館でどこに何の本があるか分からなくて、困ったことはありませんか。現在、ほとんどの図書館では、同じ方法で本を整理しています。その方法を「日本十進分類法（NDC）」といい、本の内容ごとに0～9の数字でジャンル分けをして、同じ内容の本が同じ場所に集まるようにしています。はつかいち市民図書館では、それぞれの数字が持つ特徴を捉えて、擬人化（キャラクター化）をしたものを作り、掲示しています。この仕組みを覚えておけば、初めて行った図書館でも探している本がどの辺りにあるか見当が付きやすくなります。

本の題名や著者などが分かっていれば、検索用のパソコンで調べることも可能。子ども用の画面もあります。

Par.02 何でも相談、レファレンスサービス

はつかいち市民図書館司書
堤（つつみ）　久子（ひさこ）さん

レファレンスサービスを行う堤さん。利用者が求める情報が載った本に正確かつ迅速にたどり着けるよう、インタビューをしていきます。相手の気持ちに沿った対応を心掛けているそうです。

図書館では利用方法や、本の探し方で分からないことなどを何でも相談できます。これをレファレンスサービスといい、図書館員が情報や資料を検索し、回答します。

レファレンスサービスでは、インタビューと呼ばれる方法で、利用者に対してさまざまな質問をし、どのような情報をどのくらいの量必要としているかなどを引き出していきます。

図書館員で司書の堤久子（つつみひさこ）さんは「図書館には、こんな内容の本もあるのかと、驚くほど多岐にわたった資料を所蔵しています。廿日市市内に無ければ、他の図書館から取り寄せることも可能です。ぜひ、職員に声を掛けてみてください」と笑顔で話してくれました。

Par.03 展示しています、お勧め情報

はつかいち市民図書館の子育て施策に関する中央展示。

常設展示

各館では、入り口や通路などの目立つ場所にさまざまな展示コーナーを設け、世代やテーマに合わせた本選びやディスプレイを行っています。例えば、節分やひな祭りなど季節の行事に合わせた展示や、子育てや認知症など市の施策に関する展示など趣向を凝らしています。

本や資料だけではなく、チラシやパンフレットを設置していることもあります。得する情報も多くあるので、活用してみてください。

子ども司書展示

廿日市市教育委員会と図書館が連携して、市内の小学6年生を対象に「子ども司書」養成講座を行っています。

読書の楽しさや大切さを学校や地域で広める読書活動のリーダーとなるために、子どもたちは研修を受け、絵本の読み聞かせや、お勧めの本のポップを作るなどの活動をします。

その成果として、はつかいち市民図書館では、子ども司書がお勧めする本の展示コーナーを設けています。